

～特集～

阪神・淡路大震災25年～防災力強化の取り組み～



【出演者】

井手口 健司

神戸学院大学任意団体 Seagull Rescue 代表

横山 恭子

NPO 法人日本防災士会

井戸 敏三

兵庫県知事

●今回は、阪神・淡路大震災から25年を迎えるにあたり、家庭や地域の防災力強化の取り組みについて、知事と語り合っていました。
(令和2年2月12日対談)

自己紹介

横山 神戸市出身、加古川市在住です。阪神・淡路大震災は加古川市で被災し、その時初めて災害ボランティアに参加しました。平成18年に加古川市女性消防団に入団し救命講習や消火活動に従事しましたが、防災では災害発生前の活動が重要だと考え、三木の広域防災センターでひょうご防災リーダー講座を受講し、防災士の資格を取得しました。



知事 講座を修了した防災士は2,786人で、その内、女性防災士が565人で2割。結構多いですね。

横山 資格を取られている方は多いですが、どこまで活動できているのかは疑問です。これからは質を上げていかないと考えています。

知事 広域防災センターに宿泊施設をつくろうと来年度予算案に計上しています。例えば防災士のキャリアアップセンター等に活用したいと思っています。



井手口 地震から3年後の平成10年に神戸で生まれました。舞子高校環境防災科に通う姉の影響で防災に興味を持ち、同じ高校に進みました。もう少し防災を勉強したくて神戸学院大学へ入学し、Seagull Rescue(シーガルレスキュー)へ入り、今、代表をしています。男子学生が20名、女子学生がマネジャーを含めて9名の計29名で活動しています。

知事 Seagull Rescue(シーガルレスキュー)という名前の由来は？

井手口 神戸学院大学のマークがカモメで、そこから命名しました。

知事 神戸学院大学のレスキュー隊だから Seagull Rescue(シーガルレスキュー)なのですね。



子ども向けの防災啓発活動
「ちびっこ BOUSAI (ぼうさい) トライアスロン」

知事 どのような活動をされていますか。

井手口 「震災25年若者キャンペーンプロジェクト」で兵庫県の支援金をいただき「ちびっこBOUSAI(ぼうさい)トライアスロン」というイベントを、ポートアイランドの小学生やその家族を対象に大学キャンパスで行いました。子どもたちに防災の大切さと119番通報や搬送の方法などを教え、保護者には南海トラフの危険性や子どもと助け合わないといけない点などを話しました。



知事 参加者はどうやって集めたのですか。

井手口 SNSで広報し、チラシを港島小学校で配布しました。募集定員は毎年5家族10組程度です。

知事 毎年ってことは何年もしているのですか？

井手口 先輩から引き継ぎ毎年開催しています。「今年もやるんやな」と学校や地域の恒例行事になりつつあります。

知事 それは良い企画を震災25年で実施してくださいました。1月17日をどう迎えるか、特に震災を知らない人たちにどう伝えていくのかを考えた時、大学生の皆さんが活動し発信する事業がいいと「震災25年若者キャンペーンプロジェクト」を展開しました。また、25年という1つの節目ですので、県内の100以上の団体にシンポジウムなど記念事業を実施していただいています。

子どもたちにしっかりと伝えていく活動を今後も続けてくださいな。

井手口 はい。子どもに興味を持ってもらえるよう「ちびっこBOUSAI(ぼうさい)トライアスロン」という楽しい名前をつけています。子どもたちはまず練習で救助方法を学び、その後本番に移ります。本番では僕たちの仲間が腕が痛いとか、パーティションを瓦れきに見立て「挟まれた。助けて！」と言って被災者役を演じます。子どもたちは分からないところを教わりながら被災者を助けていきます。ゲームに参加している感覚で楽しく学んでいました。

知事 「楽しく」が1つのモチーフですね。

井手口 はい。僕たち自身も楽しくやりたい。自分たちが楽しく企画運営し、子どもたちに防災の知識や技術をわかりやすく楽しく伝えるように工夫をしています。「ちびっこBOUSAIトライアスロン」終了後は、参加者に修了証を渡しています。

知事 それが励みになるのですね。学生さん自身が学ぶだけでなく、学んだ知識や技術を伝える活動をしていただくことは心強いです。

井手口 ありがとうございます。

地域や学校の防災アドバイザー

知事 横山さんは、防災士として日ごろどのような活動をされていますか？

横山 自主防災組織や自治会が実施する防災訓練などに企画運営から入り、アドバイスをしています。「防災訓練に人が集まらない。どうしたら集まるか」「防災訓練の内容はどんなものがあるか」と相談されることが多いです。

知事 どのようなアドバイスをされますか？



横山 「人がたくさん集まる行事は何ですか」と質問すると、ラジオ体操や運動会とお返事が返ってくるので「そこに防災を取り入れましょう」と、人が集まる地域行事に防災訓練を入れていくことを提案します。

知事 地域の人は戸惑っていませんか？

横山 最初はそんなやり方があるのかと驚かれます。例えば、ラジオ体操に毎回子どもから高齢者まで 100 人集まる自治会では、年1回ラジオ体操後に炊き出しをし防災講話を聴くという防災訓練を実施し、長く続いています。防災訓練に人が集まらないということも解消されました。炊き出しの練習にもなるし、朝ご飯や食の大切さなども伝えています。

知事 食育にもなっているのですね。県が備蓄している防災食も消費期限が切れる少し前に処分しますが、防災訓練などで活用してもらうのが一番いい方法ですね。炊き出し材料はどうされているのですか。

横山 加古川市からいただいたり、県に相談をしたり、自治会の備蓄品で消費期限が近い物を入れ替えたりしています。防災食にこだわらず、地産地消でみんなが材料を1つずつ持ち寄ることもあります。

知事 地産地消も心がけているのですね。

地域の自主的な防災活動を進める上で、横山さんはどのよう



な点に気をつけておられますか。

横山 井手口君と同じく「楽しく」を一番に考えています。防災講演では「いいお話だった」で終わることが多いので、それよりも楽しく思い出に残る訓練を大切にしています。楽しかったらお家や近所の人に話したくなりますので、そこからも広めてもらえたらいいなと思っています。

知事 「楽しく」というキーワードは重要ですね。

井手口君のグループは地域の防災訓練に参加しますか？

井手口 神戸市から大学へ依頼があり、防災訓練などにブース出展をすることがあります。今後は自分たちから声かけをしていこうと話しています。

「しつけ防災」

知事 横山さんは生活の中に防災を取り入れる活動をされているようですが、どのような活動ですか？

横山 まず「防災は特別なものではない」とお話しさせていただきます。今、新型コロナウイルスが蔓延していますが、これも災害ですよね。「子どもが外に遊びに行きだしたら、家に帰った時に手洗いうがいをする、そのしつけから始めましょう」と伝えます。防災、防災と特別に言わなくても、小さい頃から当たり前に身につけていけば、安全な社会ができるのではないかと考えています。

知事 なるほど。それは素晴らしいですね。

横山 子どもたちに最初にしてもらいたいのは部屋の片づけです。「ブロックを踏んだら痛いよね。地震の時は部屋がぐちゃぐちゃになるよ。使ったら片づけよう」と話します。このような「しつけ防災」を勧めています。

知事 子どもたちはちゃんと聞きますか？

横山 最初はなかなかできないかもしれませんが、防災訓練などで聴いたことをもとに、ご家庭で会話ルールをつくるのが大事だと思います。大人だけではなく、子どもと一緒に考えたら全員の防災意識が高まります。

知事 三木にあるEーディフェンス(実大三次元震動破壊実験施設)で2年に1回、県としてテーマを設定し実験をしてもらっています。阪神・淡路大震災と同規模の地震が発生した際、超高層ビルの 30 階ではどんな揺れ方になるのか再現したのですが、ピアノが部屋の中を走り回り、食器棚などは倒れました。家具が倒れないように固定器具をつけることが非常に重要です。

南海トラフ地震が発生したら更に横揺れが激しいと思われます。固定器具は1分程度しかもたないでしょう。けれど、その1分間が重要です。安全な所に逃げられるから。

ですから今、県民の皆さんに強く呼びかけたいのは、自分の命を自分で守る取り組みです。「しつけ防災」はそれに通じますね。

横山 そうですね。防災対策にはタイミングもあると思います。例えば大掃除の時に家具に固定器具をつけるなど、タイミ



ソングもわかりやすく伝えてあげると取り組みやすいと思います。

知事 横山さんがおっしゃっている、生活の中に防災を取り入れて定着させることは私たちが言っている「災害文化」です。災害文化が受け入れられた社会は、防災についての認識や行動が自然に行われている社会と位置づけています。災害文化が定着している社会にむけて、実践者としてよろしく願います。

防災活動を行う上で大切なこと

知事 お二人が活動を進めるにあたり大切にされていることは何ですか？



井手口 継続することです。それと僕たちが伝えたことを子どもや地域の人たちがちゃんと理解し、覚えてもらえているかも重視しています。防災活動につなげていくため、実際に災害が発生した時に子どもたちが知識や技術を使えるようにしたいと思っています。

知事 横山さんはいかがですか。

横山 今一番大切にしていることは自主防災組織や家庭が自立することで、それを後押しする活動をしています。例えば学校の防災訓練では授業中に地震や火事起きるという場面設定が多いのですが、そこを1度見直してもらい、ここの地域だったらどんな災害が起きる可能性があるのかを考えてもらいます。また、障害のある生徒さんが多い学校であれば、それを踏まえて子どもたちをどのように避難誘導していくのか見直してもらいます。

知事 障害者の防災訓練を手伝われたのですか？

横山 企画段階から一緒に、防災訓練をしました。ある避難訓練コンサートに参加した時、車いすの方達が訓練開始前に会場外に誘導されたのを見たのがきっかけです。障害者が災害時に体験するかもしれない混乱状態はリスクが高いため、防災訓練ではなかなか実践されません。



そこで、障害者とそのご家族や支援者を対象に、車椅子を抱えて階段を降りる訓練を企画実施しました。開始前は訓練への参加希望は1組だけでしたが、防災講話などを聴かれてお気持ちが変わり、結果として全員が体験されました。

知事 今お話しいただいたように障害者の避難は非常に難しいですね。ですから今、私たちは、その人にふさわしい避難計画をつくることを進めています。

一つは避難行動要支援者に対する個別支援計画の作成を支援しています。福祉関係者が自主防災組織と連携しながら、誰が、いつ、どのような方法で、どこに避難をさせるかといった個別支援計画をつくります。今年4月からこの取り組みを更に強化していきます。

事前に自分で避難計画をつくる「マイ避難カード」の全県展開

—編集発行—

こころ豊かな美しい兵庫推進会議
(兵庫県企画県民部県民生活課内)
〒650-8567 神戸市中央区下山手通 5-10-1
TEL: 078-362-3136

も進めています。「ひょうご防災ネット」スマートフォンアプリという優れたアプリがあるのですよ。これを使うと簡単に「マイ避難カード」が作れます。皆さんに使っていただき、日頃から防災を心がけていただくとありがたいです。

今後の抱負

知事 最後に、横山さん、これからどのような活動を展開されますか？

横山 災害が起きる度、災害弱者の逃げ遅れが取り挙げられますが、災害弱者の方からは「逃げ遅れじゃない。逃げられなかった」とお聞きします。これを今一番早急に解決したいと、防災介助士という資格を取りました。これからは福祉防災に力を入れようと思っています。災害弱者の方、障害者だけではなく、小さい子どもさんも、怪我をされている方も守ることができれば誰もが住みよいまちづくりにもつながると思っています。

知事 ぜひよろしくお願いします。井手口君は？

井手口 子ども+地域を意識しています。今は大学キャンパスでのイベント実施がメインですが、今後は地域へ出向いた防災活動を進めていきたいと思っています。



知事 出前防災教室ですか？

井手口 はい。昨年、徳島県で一度実施しました。防災を教えに行ったのですが、その地域には漁師や農家の方がいらしゃってロープ結索では僕たちより詳しく、逆に教えてもらいました。僕たちがいなくても、地域の中で防災のロープ結索が学べるのです。自分たち学生が地域の防災訓練に入ることによって、地域で新たな顔合わせができました。このようなきっかけづくりが兵庫県でも出来ればいいなと思っています。

知事 今日現場で活躍をされている横山さんと井手口君にお話しいただきました。お二人のご活躍をこれからも大いに期待しています。ありがとうございました。

井手口 横山 ありがとうございました。



ココロン HP 内にて、より詳細な対談の様子を動画にて配信中！
「ネットワーク 知事対談」で検索、もしくは左のQRコードをスキャンしてください♪



防災かるたで楽しく遊ぼう！学ぼう！
NPO 法人兵庫県暮らしにやさしい防災・減災 代表 芦田耕司(芦屋市)

NPO 法人兵庫県暮らしにやさしい防災・減災
電話 090-5962-3638

阪神・淡路大震災を経験した仲間が創る「やさしい防災・減災かるた」は、地震や津波のほか台風・水害、ゲリラ豪雨、地すべり、土砂災害、竜巻、なだれ、火山噴火、火災などの自然災害から命を守るキーワードがふんだんに盛り込まれているかるたです。

今年もこのかるたを用いて楽しみながら自助意識と防災力を高める防災かるた取り会と映像を用いたお話及び液状化の実験やペットボトルで雨量計を自作する体験型の防災啓発活動をしています。

いつ生じるか分からないさまざまな自然災害に備えるために、子どもたち、高齢者や認知症などの障害を持つ方などすべての方に防災・減災の正しい知識を誠実に分かりやすく伝えていくことをめざしています。



ペットボトルの雨量計をさあ作ろう！

減災、防災意識の共有を
東播磨地域防災の会 会長 松尾 昇 (加古川市)

東播磨地域防災の会 山口
電話 090-8982-8683

私たちは防災士のボランティアです。

1人で無理な活動も同じ「志」を持つ同郷の仲間がいれば“減災意識”をひとりでも多くの県民に広めることができるという思いで平成26年3月1日に発足しました。

地震の発生確率は毎年上がってきています。いつ発生するか誰も予想ができません。それに備える心構え、瞬時の判断、そして行動について、私たちと一緒に考えてみませんか。

防災・減災意識の啓発や普及活動の他に、AEDを用いた心肺蘇生講習や気道異物除去法などの乳幼児への救命講習も行っています。

現在は全員防災士ですが、資格を持っていなくても、我々の活動に共感していたければ歓迎いたします。ご興味があればぜひお問い合わせください。



未来を担う子どもたちと稲美でのふれあい

地域みんなで防災意識強化！
神種(このくさ)自治会 会長 田淵 憲三(姫路市)

神種自治会 会長 田淵 憲三
電話 090-1020-0111

神種自治会では、令和元年10月27日、初めて大規模な自主防災訓練を実施しました。小さな子どもから高齢の方まで、地域住民の8割近くの方が参加する有意義なものとなりました。

訓練の前には、自主防災組織図(ピラミッド型)を作成し、全戸に配布しました。訓練では、地元企業、住民の協力のもと地域総出で、よりリアルな現場を再現。住民だけによる救助を想定し、重機を使って倒壊家屋から被災者を救助するなどしました。様々なスキルを持った住民が協力し合うことで、地域の結束力も高まるとともに、「被害が出る前にがんばろう」という気持ちが強まりました。

これを機に、住民一人ひとりの防災・減災意識を高め、助け合いの意識が持てる安心できる地域づくりをめざしていきます。



「自主防災訓練」の様子

「サバイバル・マネジメント」の活動について
和田山高等学校地域活性化実行委員会 実行委員長 森垣 泰宏(朝来市)

和田山高等学校地域活性化実行委員会 森垣
電話 079-672-3269

当実行委員会では、地域活性化のため生徒が主体的に地域の課題に取り組む「郷土研究2019」を開催しました。「サバイバル・マネジメント」研究では、防災や消防などについて学び、将来の地域における防災リーダーの育成を目標に様々な活動を行いました。生徒の居住地のCGハザードマップを確認し、各家庭での避難経路を家族で共有しました。また、消防操法の練習をすることで消火活動の動きを安全かつ正確に行えるよう研究し、南但消防本部の方に来ていただき小型ポンプ操法大会を行いました。この研究活動を通して、地域での消防の活動を知り、防災意識の向上につながりました。

今後も地域の防災リーダーの育成を目指し、地域に根差した活動を続けていけるように考えています。



小型ポンプ操法の練習

『ワンチーム』地域あげての「防災意識高場のつどい」
ウエストコーストぐんげ商店街協同組合 理事 大杖 康之(淡路市)

ウエストコーストぐんげ商店街協同組合 大杖
電話 090-8753-7208

私たちの商店街は震源地から15キロメートル南下した淡路島西海岸沿いに立地しています。阪神淡路大震災により町の約8割が全半壊し、13名の尊い命が奪われました。

震災の発生から25年を迎え、震災の体験を風化させず後世に語り継ぎ安心・安全な「支え合う地域社会」の実現をめざして『防災意識高場のつどい』を令和2年1月17日に開催しました。当日は、地域住民はじめ、町内会、小学生、中学生、大学生、各種団体など約200名で犠牲者を追悼し、今後起こりうる災害に備えての防災講義や避難訓練を実施し、終了後参加者全員に炊き出しによる豚汁を振る舞いました。

今年度このイベントも20回目となり「継続は力なり」で今後も地域あげて開催していきたいと思っています。

1月17日開催、商店街での鎮魂イベント

